

令和6年度 第1回寝屋川市環境保全審議会 会議録（要旨）

日 時 令和6年5月16日（木）9:30 から 11:30 まで

場 所 寝屋川市クリーンセンター 6階 多目的室

出 席 山本会長、鯉坂副会長、村瀬委員、上原委員、小坂田委員、
掛川委員、櫻井委員、荻野委員、玉川委員、古川委員、丸山委員、
箭木委員、原口委員

1. はじめに

（事務局よりあいさつ）

2. 次第1 委員の紹介

（事務局より委員の紹介）

3. 次第2 本市の環境施策について

（資料2に基づき、事務局より説明）

4. 次第3 第6回寝屋川市環境フェアの開催について

（資料3に基づき、事務局より説明）

【会長】

事務局からご説明いただきました次第2、及び次第3の内容等について、意見交換という形で進めたいと思います。皆さんのバックグラウンドに関連するようなところで、コメントをいただければと思っています。

【委員】

質問とコメントが3点あります。一点目はアプリによるポイ捨て通報についてお尋ねします。昨年度の資料に掲載されている件数と比較して見たところ、今年度はアプリの投稿件数が減少しているようです。これはアプリの使用が減ったためなのか、ポイ捨て自体が減少したためなのか、どちらでしょうか。また、アプリの効果やポイ捨ての目標の達成状況について教えてください。

二点目に、環境の監視について、測定結果が公開されているホームページを確認しました。光化学オキシダントが環境基準未達成ということがわかりやすく書かれている点は良いと思うのですが、各月別のデータを見ると未達成日数が0日と表示されているのが気になりました。実際に健康に影響がある場合は、防災無線などで市民に周知されていると思いますが、市民にわかりやすく情報を伝えるために、表記方法を検討していただければと思います。

三点目に、ごみの排出量の推移について、順調に減ってきているようでよろしいかと思います。また、減少の要因として市民の方々のごみ分別への協力が進んでいるのご説明がありましたが、令和5年度のごみの排出量が目標を達成しているのか教えてください。また、昨年度の委員会で家庭の不燃ごみ対策が課題とご説明いただきましたが、不燃ごみについて、どのような対策を講じられたのか教えてください。

【事務局】

アプリの投稿件数は令和4年度と比較して約3分の1に減少しましたが、要因としては、電話やメールでの通報も多く、アプリ以外でも様々な形で情報提供をいただいています。不法投棄の件数や総量も減少しているため、アプリの効果が全くないわけではなく、一定の効果はあると考えています。

二点目にご指摘の光化学オキシダントの表示について、現在令和5年度のデータがまとまったため、ホームページの公開方法を検討しているところです。未達成日数の表記についても、市民にわかりやすくするために検討中です。ホームページの記載方法については、日平均値を用いた表示を基本としています。

三点目のごみの総排出量につきまして、令和5年度の目標値が66,048トンのため、目標を達成しています。家庭系ごみの目標値は45,406トンですので、こちらも達成されておりますが、事業系ごみの目標値が15,663トンですので目標を超過しています。事業系ごみについては、多量排出事業者にごみ減量計画を提出してもらうなどの対策を実施しています。

【会長】

この件については、次回の審議会でもっと詳しいデータが出てくると思いますので、引き続きよろしくお願いします。

【委員】

私からは、生物多様性という施策の中の生き物関係について、二つほどお話をさせていただきます。

まず一つ目は、去年の審議会でも触れましたが、桜の花見をできなくしてしまう

クビアカツヤカミキリという虫が、とうとう寝屋川市にも入ってきました。去年寝屋川市で見つかっているので、新たなクビアカツヤカミキリの情報がまた入ってくるかもしれません。根絶は難しいので、去年見つかった場所に近い桜では、まだ見つかる可能性があります。そのため、市民からの情報をなるべく吸い取っていただきたいというのが一つ目です。

それに関連して、桜の木を守ろうという思いがある場所、例えば公園などそういった場所を利用する方々に現状を周知し、早期にクビアカツヤカミキリがいるかどうか確認してもらう取り組みをしたらどうかという提案です。うちのセンターでは、大阪城の桜などにクビアカツヤカミキリの被害が拡大すると困るので、利用者に対して管理者側から説明会を実施していただく予定です。みんなで使っている場所をみんなで守る取り組みを、寝屋川市でも進めていただければと思います。

もう一点は、アライグマについてです。去年一年間、大阪府内のアライグマにマダニがどれくらいついているのか、それらのマダニが人間にうつる病気を持っているかを調べました。200 頭以上のサンプルを調べたところ、結構マダニがついており、そのマダニの中には人間にうつる病気を持っているものもありました。それらのマダニが人間について血を吸うと病気が感染することがあります。アライグマは都市部でも生息するので、今後そういった問題が起きる可能性があるという情報提供です。

【事務局】

一点目のクビアカツヤカミキリの件ですが、原口委員からあやしいとみられる情報をいただいております、本日具体的な場所を確認して、管理者と生物多様性センターにも情報を提供したいと思います。よろしくお願いします。

【委員】

脱炭素社会についてです。我々の会社は都市ガス会社ですので、メタンを主成分としており二酸化炭素を排出してしまいましたが、石油や石炭に比べるとクリーンなエネルギーです。また、二酸化炭素と水素を合成して作る e-メタンの研究を進めています。まずは低炭素社会を目指し、石炭や石油からクリーンなエネルギーへの転換を進め、2050 年のカーボンニュートラル実現を目指しています。さらに、現在国から補助金があるエネファームという燃料電池システムも導入しています。

また環境フェアでこれらの内容を小学生向けにわかりやすく説明させていただきます。よろしくお願いします。

【事務局】

寝屋川市では太陽光発電システムの設置費補助を行っており、市民の方もエネファームやエコキュートについても関心があると思います。国の補助金があるため、市としては対応していませんが、そういったことも含めて環境フェアで情報提供していただければと思います。よろしくお願いします。

【委員】

寝屋川市商業団体連合会から参加しております。寝屋川市商業団体連合会は、大型量販店、商店街、そして私のような個人店舗や中小零細企業の集まりです。

私の本業はガソリンスタンドの経営で、父が60年前に始めたのですが、当時は車も少なく、公害という概念もあまりありませんでした。今は石油が公害の原因とされることに、少し複雑な気持ちです。

環境に関する話ですが、私はいかなごのくぎ煮が好きでしたが、最近は買うことができなくなっています。これは、海が綺麗になりすぎていかなごが住めなくなったからだとも言われているそうです。個人的には、ある程度の汚れも必要なのかもしれないと思っています。

去年も申し上げましたが、寝屋川市は川がついている数少ない中核市のため、川をテーマに何かできないかと考えています。例えば、ホテルが見られるような川にしたいと思います。学生たちと一緒にメダカやフナ、ホテルやカワニナが住める川を目指したいです。以上です。

【会長】

ガソリンスタンドの話に関してですが、石油をゼロにすることは難しく、大切に使うという方向性が求められていると思います。合成燃料の話も進んでいますが、車も100%電気で動かすことが難しい部分があります。

また、川をテーマに学生たちと一緒に何かできるか、第3次寝屋川市環境基本計画で川をテーマにいろいろ考えていければと思います。

【委員】

昨年から、寝屋川市工業会から参加させていただいています。工業会には製造販売などを行うメンバーが多く、私は環境に関する仕事をしています。

環境に関することで、市の職員の方々が熱心に取り組んでいるのを感じています。工業会では二か月に1回、役員会などを開いており、寝屋川市でこういう活動をしていると報告しようと思います。

一部の方だけが知っている情報を、興味を持っていらっしゃる市民の皆さんに情報提供するということは非常に大事だと思っています。よろしくお願いします。

ます。

【事務局】

我々も環境フェアや地域のコミュニティセンターでのイベントなどで情報提供に努めています。櫻井委員も工業会の皆さんに広めていただければと思います。

【委員】

太陽光発電について気になっておりまして、数年前に我々の自治会で検討した際、設置に約 500 万円かかるという見積もりがありました。費用対効果を考え見送りましたが、現在、市内で太陽光発電を行っている自治会はどれくらいあるのか教えていただきたいです。

また、ごみの分別に関する意識の向上が必要だと感じています。自治会内での分別がまだ浸透していないとの声もあり、ごみの処理についての懸念があります。

【事務局】

自治会集会所の太陽光発電については、平成 26 年度から取り組み、令和 5 年度が終了した時点で 52 件の自治会集会所に設置され補助金を利用されています。また資源集団回収では、地域のごみ減量やリサイクル量の増加が進んだ地域と進まない地域で差があります。分別意識の向上についても、まだ課題は残っているため、今後も周知活動を強化していく予定です。

【委員】

了解しました。私も意識してごみを分別し、捨てるよう努めます。

【会長】

ありがとうございます。荻野委員の積極的な取り組みを期待しています。雑紙の回収など、より良い形での活動ができるよう願っています。

【委員】

私は寝屋川市農政推進協議会から出席しています。九個荘農業協同組合の代表理事もしています。大阪府内にはかつて多くの農業協同組合がありましたが、現在は 14 しかありません。

農業でも環境を考慮する必要があるのですが、最近は虫が多く、肥料や農薬の使用が増えています。農業は従事者が減ってきているので、省力化・機械化を進めるために、農薬メーカーは一度で複数の虫に対応できる製品を開発しています。一発処理剤という肥料がありまして、これは時期が来ると殻が勝手に割れて肥

料が効くというものですが、その殻が川に流れ込み海洋環境に影響を与える可能性があります。また、他県では苗に肥料を施し、植え付け後は不要という取り組みも進んでいるようです。農協としては、環境対策として各農家でゴーヤを植えグリーンカーテンを作る、川の水を撒くことで温度を下げるなどの活動も行い、エコスタイルの推進を進めています。

【会長】

農業の高齢化や人手不足と環境への配慮をどのようにバランスをとっていくかが今後大切になってきますね。

また、緑地面積の維持も農業をやめられる方が増えると難しくなりますので、重要なところですよ。

【委員】

環境フェアでは、スタンプラリーに参加するとゴーヤの苗がもらえるようになっていますが、スタンプラリーの場所がわかりにくいと思います。皆さん一生懸命走って探されているので、もっとわかりやすくしたらよいと思うのですが、どうでしょうか。また、ジモティーを活用したリユースの推進が、あまり浸透していないように思いますが、具体的に市としてどのようにされているのでしょうか。

【事務局】

ご指摘いただきありがとうございます。スタンプラリーの場所の案内に関しては、せっかく来ていただいたので、参加者にはより多くのブースを見て回っていただけるようにと考えております。ですので、一覧表などで場所をお示ししてしまうと、隅々まで見て回っていただけないのではないかと考えております。また、ジモティーを通じたリユースの推進に関しましては、年に一度発行しているクリーンカレンダーに1コーナー設けておりますが、環境フェアなどを通じて、さらなる周知のほうを進めてまいりたいと思います。

【委員】

20年以上前から、自然シリーズ講座や観察会などを通じて、若者や大人の皆さんに自然への興味を持ってもらおうと活動しています。

最近の市の広報で、寝屋川市が環境保全に力を入れていることをアピールしていらして、感心しています。今後も楽しみにしております。

第2次寝屋川市地球温暖化対策地域計画に「環境を私たちが考え、守り、育てるまち ねやがわし」という言葉がありますが、これに共感をもって、評価してい

ます。私たちが住んでいくこれからの寝屋川市をどのようにみんなで考えるのかということを広めていくことがとても大切だと感じています。

また、新聞で他市の若年層のまちづくり参画についての記事を見ました。高校生と市長の意見交換や市議会への参加など、若者のまちづくりへの取り組みについて書かれており、将来の地域社会の担い手である子供たちをどう育てていくかということが、これからの寝屋川のまちづくりを進めていく上で、避けては通れないことだと思っています。

もう一点、シュレッターの紙を土に埋めて微生物が分解する取り組みも興味深く思っており、捨てられていたものの再利用の研究が地域社会の未来につながることを期待しています。

【事務局】

地域計画の標語につきましては、そのさらに上にあります環境基本計画で、こちらの皆様に素晴らしい標語を考えていただきましたので、そのまま地域計画にも取り入れさせていただいております。

第3次寝屋川市環境基本計画から大きく変わった点といいますと、環境教育が項目として上がってきたところです。それを受けて、現在小学生を対象にいろいろな事業を行っております。別の部署では若者会議などを通じて若者の意見を市政に取り入れる取り組みを行っていますが、子供たちが成長し中学生、高校生になったときに、環境の分野においても、現在の小学生・中学生をどのように取り扱っていくのかを検討する必要があると考えています。

【副会長】

今、環境リーダー養成講座は小学校4・5年生を対象にしています。今年で3年目を迎えますので、彼らが中学生になっていくことが期待されます。環境リーダー養成講座で認定を受けた子供たちが中学生になって小学生にレクチャーをすることが、10年計画で考え実現できるのではないかと思います。

また、高専生と大学生の横の連携ができると、寝屋川市内にある高専と摂南大学、電気通信大学が協力し、若者たちが子供たちを育成するスタイルが増えるのではないかと思います。

【委員】

環境フェアに、私の関係する学生を連れて行く予定です。寝屋川市の取り組みを理解してもらい、次の連携のステップにつなげたいと思います。関心を持つ何人かをうまく巻き込んで連携させてもらえればと考えています。

【委員】

以前、メダカ調査に参加した際、残念ながらメダカは見つかりませんでした。メダカ調査というと、メダカがたくさん捕れると期待するので、違う名前を検討されてもいいのではないかと思います。

ポイ捨て禁止の看板を配布されていますが、毎日見ているとそれが当たり前になってしまって、何も感じなくなってしまう。罰則があるといっても、実際に罰せられることはほぼありません。具体的な解決策はありませんが、何かできないかと思っています。

また、年齢とごみの排出量の関係性も気になっており、年齢別に出すゴミの量は違うのではないかと考えております。

アルミ缶は高価で売れるので、カン・ビンの回収日を狙ってアルミ缶を持ち去る人を見かけます。これは市にとっていいのか悪いのか、どうなのでしょう。

グリーンカーテンということで、ゴーヤの苗の配布をしている点についてですが、ゴーヤの栽培方法や不要な土の処分について、アドバイスなどがあると思います。家庭菜園などでお困りをお持ちの市民の方は多いと思いますので、そういったところの解決にもつながるのではないのでしょうか。

寝屋川の水面付近にジャンボタニシの卵をよく見かけるのですが、このまま放置していいのだろうかと思っています。

農地の再開発計画について、環境の面でも、緑地面積の点でもどうにかできないだろうかと思っています。

【事務局】

メダカ調査は、メダカがいたらいいねということでこのような名前になっております。調査開始前に参加者に現状を説明し、メダカが見つかりにくいことをお伝えしたうえで、川の生物全般を対象として調査するという認識を持ってもらえるようにしたいと思います。

【事務局】

ポイ捨てや犬の糞は市民の多くが良くないと思っている中で、一部のマナーの悪い方がされているというのが現状です。看板の配布や、機会を見てやめましよう周知しているところですが、課題は依然として残っています。

年齢別のごみの排出量ですが、家庭ごと世帯ごとでごみを排出されているため、年齢別のデータは出せておりません。捨てられたごみの内容を調査する機会では、地域別でのごみ内容の調査を行っております。

また、アルミ缶などの再利用可能な資源ごみの回収は市の条例違反ですので指導に努めていますが、他地域から資源ごみの持ち去りの通報が散見されます。指

導方法については、捕まえて氏名住所、連絡先、誓約書を書かせることで相手の持ち去り行為に制限をかける方法で、今後も引き続き対応していきます。市民の方からも通報や報告をいただいております、我々もそこを傾注しながらパトロール、指導いたします。

土の処分方法については、たまにお問い合わせをいただきます。回答の一例として、天日干して再利用していただくことや、購入先に回収してもらえるかを確認していただいたうえで購入先へお返しする方法などを説明しています。また、ジャンボタニシの問題については、市として駆除の方針は現時点では取られていませんが、農家の方々にとっては深刻な問題であることは認識しております。

【委員】

ジャンボタニシは、農家の方々にとっては稲を食べる害虫で大変な問題ですが、他にも人に危害をくわえたり、産業などに大きな影響を与えたりする生物はたくさんいます。それらから順に行政が動くことになっていますので、これはほかの自治体でも同じかと思います。

【委員】

リサイクル事業に関して、フリマなどで出品するのは出品側に手間がかかります。自分ではもう使わないものでも、他の人が有効活用できることもあるので、環境フェアなどで行政が仲介して、使える人に譲る仕組みができないかと考えています。

【事務局】

環境フェアでは、エコの市という形でフリーマーケットを実施しており、市民が不用品を販売することで再利用を促しています。

【委員】

第3次寝屋川市環境基本計画では、メダカや蛍が生きるまちを目指していますが、具体的な環境像を掲げ、その達成に向けた取り組みが必要だと感じています。現状の把握にとどまらず、これらの生物が住める環境を整えるために、水質や生物の状態、水辺の環境を詳細に調査し、目標を設定して進めていくべきです。その際には専門家の知見を活用し、市民活動として展開することで、多くの市民の協力を得ることが重要だと思います。

ごみの排出量についてですが、ごみの排出量は減少していますが、資源集団回収量も減少しています。この3年間のデータから、ごみが減っても回収率はほとんど変わっていないことが分かります。ごみの減少に対して資源集団回収量を維

持することが重要であり、分別の意識を高める必要があります。

また、地球温暖化対策として、私はマンションの管理組合で LED 化工事を行い、電気使用量は前年同月比で減少しました。これにより、LED 化の効果を実感しています。また、大規模改修工事の際には廃棄物の適切な処理や作業員への周知、安全管理を徹底しており、アルミの回収なども適切に行っています。今後もこの取り組みを継続し、実績をまとめてこの会議で報告したいと思います。

【会長】

生物多様性の調査は難しいところですが、具体的な改善が見える形での取り組みを検討したいと思います。資源集団回収量の維持や分別意識をどのように向上させていくのかも、また今後考えていきたいと思っています。LED 化工事の実績についても、ぜひまたこちらに共有していただけたらと思います。

【事務局】

生物調査については、生息している生き物の種類が水質などの指標になるかと思っております。ごみの排出量は、資料に書いているごみの総排出量には資源集団回収も含まれておりますので、それを抜いたごみの量で分析してみることも検討します。

【副会長】

寝屋川市の環境基本計画では、「育てるまち ねやがわし」を目指していますが、この「育てる」という概念が非常に重要だと考えています。

私は環境リーダー育成に携わっておりまして、参加者数を見ますと、令和4年度が11人、令和5年度が40人、今年度は70人以上の参加が見込まれています。コロナ明けでスタートは厳しかったものの、昨年度の取り組みが好評で、今年度はさらに参加者が増える見込みです。次年度以降も同様の人数を期待しています。

また、環境リーダーとして認定を受けた子供たちが、今度は子供たちに教える側として携わるような循環ができたらと思います。

寝屋川リーダーズという教育委員会が主催するボランティアリーダー養成活動があり、これが環境教育にも寄与しています。この連携を強化することで、中学校の生徒会なども巻き込んで、小学生だけでは実行が難しいことにも一緒に取り組んでいくことができたらいと考えています。

また、子供たちに環境基本計画を知ってもらうための環境教育にも取り組んでいます。昨年一昨年は、脱炭素に向けての知識を学んでもらうすごろく、生物多様性について学ぶすごろくを作成しました。今後、寝屋川の生き物のことを子供

たちに学んでもらえるようなすごろくなども作っていきたいと思います。
こうした取り組みが大きなサイクルを生み出し、10 年間の計画の中で効果的に機能することを期待しています。

【委員】

鯨坂先生が環境教育で子供たちに自ら行動する力を育てることは重要ですが、時間がかかる取り組みです。毎年少しずつ進めていく必要があります。しかし、近年の学校の働き方改革の影響で、教師と連絡が取りにくくなり、子供たちが十分な時間を過ごせない現状があります。教師も長時間働けず、創造的な教育が難しくなっています。このままでは、子供たちの成長が阻まれるのではないかと懸念しています。働き方改革は必要ですが、教育現場とのバランスを考えないと、将来の子供たちの育成に支障が出ると思います。

【会長】

すごろくについてですが、寝屋川の特性を生かした生き物に関する新しいすごろくのアイデアは素晴らしいです。また、何年も取り組んでいく中で、子供たちが成長し、市政について考えるようになり、寝屋川リーダーズと連携して環境以外の視点も取り入れることで、大きな発展性があると思います。また、学校教育だけでなく、地域が子供を育てていける方法も考えていければと思っております。

今年度の取り組みを通じて、問題点やご意見を挙げていただきましたので、それを来年度の環境基本計画の見直しに反映し、残り 5 年間の計画を効果的に進めていきたいと考えています。

5. 次第4 令和6年度環境保全審議会スケジュール（予定）

（資料4に基づき、事務局より説明）

6. 次第5 その他

（事務局より、第2回環境保全審議を案内）

【会長】

では、本日本日予定しております案件がこれで全て終了しました。事務局のご挨拶を受けたいと思います。よろしくお願いいたします。

7. おわり

（事務局よりあいさつ）

以上